

各種研修で現場監督の総合力を高め 施工力と対応力の向上を推し進める

株式会社 GRIT
代表取締役
井藤元希氏



▶▶ Report ▶▶ (株)K GRIT (ケイグリット / 旧: (株)カナガワファニチュア)

レジャー・ラブホテル分野で豊富な建築施工の実績を有する(株)K GRIT。一昨年、(株)カナガワファニチュアから社名を変更し、新社長に就任した井藤元希氏のもと、レジャー・ラブホテルの建築・施工にさらに邁進している。同社は、小規模な修繕工事から大規模な改装・新築まで、高い施工力と迅速な対応力を取り組み、経営者・設計事務所から高く評価されている。その背景にあるのが、同社の現場監督の能力の高さだ。建築業界においても人手不足・人材不足が指摘されているが、同社はどのように現場監督を育成しているのか。本稿ではその取り組みをレポートする。

各種研修に注力し 現場監督の総合力を強化

K GRITが、レジャー・ラブホテル分野の建築・施工において多くの経営者や設計事務所から高い評価を得ているのは、幅広い建築・施工ニーズに対応し、それぞれ高い施工力と迅速な対応力を示しているからだ。

例えば、レジャー・ラブホテルには破損や劣化に対処する修繕・メンテナンス、設備入替に伴う内装の部分変更など、小規模な工事も求められる。同社はこれらの対応にも力を注ぎ、「経営者の意図を的確に汲み取り、最良の提案をする」ことを目指し、専門チームをつくって臨んでいる。その結果、フレキシブルかつ迅速な対応を実現し、好評を得ているのだ。

また、改装工事においては、非日常空間の構築には細部にわたって高度な施工技術が求められる。同社は大正10

年に桐タンス製造で創業し、レジャー・ラブホテルの内装工事も40年以上にわたり手掛けてきた歴史のなかで、確かな技術力に加え、この業態の特殊性を踏まえた施工ノウハウを蓄積しており、それが信頼できる施工会社という評価につながっている。

さらに近年は、大規模改装や新築の受注も増えているという。これは、建築施工だけではなく、設備・電気工事も含めて一括受注できる体制を整えていることも大きい。一括受注によるスムーズな工程調整などは工期やコスト面にもメリットがあり、それが評価されているのだ。

このように、レジャー・ラブホテル分野で幅広い建築施工に取り組んでいる同社だが、代表取締役・井藤元希氏は「工事の規模に関わらず、建築施工においては、現場監督の能力が重要です。当社でもさまざまな研修等も行ない、現場監督の能力向上に力を注いでいます」という。

人手不足・人材不足が指摘されている建築業界にあって、同社は現在、20人の現場監督を有し、建築施工の現場に臨んでいる。

「1人前の現場監督に育つには、経験も必要なだけに数年以上かかります」(井藤氏)。現場監督は、施主と設計事務所、現場職人の間に立ち、それぞれの意向を汲み調整しながら、高品質な仕上がりをスムーズに実現しなければならない。そのためには「建築関連の専門知識はもちろん、幅広い能力が求められる」(井藤氏)というのだ。

同社の現場監督育成の取り組み方を見ると、専門知識とともに人間力強化

にも力が注がれ、まさに総合力を高める育成が行なわれているのがわかる。

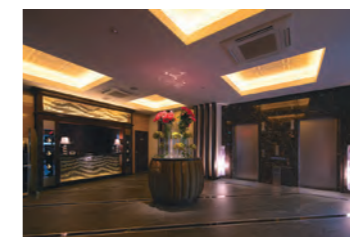
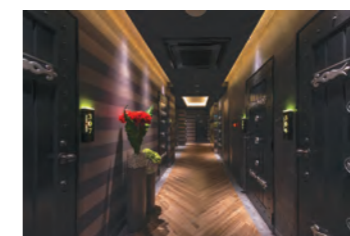
まず、教育・育成のベースになるのが、通称「親子制度」と呼ぶ、先輩が後輩を指導する仕組みだ。これは、同社の企業風土でもあり、若い世代の現場監督を育てる基礎となっている。さらに、その一環として、3か月に1回のペースで社長も含めた面談を設け、作業日報も一方的な提出ではなく本人にフィードバックされる。現場に入れば1人でさまざまなプレッシャーに対応していかなければならない。若い世代の現場監督には、精神的なフォローとなる育成の仕組みも必要だという。

現在、同社が力を注いでいるのが「手描きの図面制作」の研修だ。若い年代の現場監督は、ほとんどがCADを使い手描きの経験がない。しかし、手書きの図面制作は、図面を読み取る力につながるという。そこで、あえて手描きの図面制作の研修も実施しているのだ。ほかにも、施工に関するマニュアル制作の研修も実施。自社工事におけるマニュアルをつくることで、必要な知識を得ると同時に自ら作業工程を考え判断する能力を付けるのが目的だ。もちろん、最新の建材や設備に関しては、定期的にメーカー担当者からの説明を受ける機会が設けられている。

また、マナーや電話対応の研修が行なわれていることも注目される。施主をはじめ工事関係者とのコミュニケーション力の向上が目的で、一連の施工のなかでやはり良好な人間関係をつくるのがすべての基礎になるからだ。

ほかにも、定期的に注目店舗の視察なども行なっている。店舗視察委員会

■(株)K GRIT の建築・施工例



(設計・監理: (株)KOGA設計)



頭文字である「K」は前社名カナガワファニチュアのこれまでの歴史や伝統へ敬意を表している。
「GRIT」にはこれまで引き継がれてきた「やり抜く力」と「G」「R」「I」「T」それぞれの文字に理念を踏襲した想いが込められている。

G	GRID 格子 = 空間	空間造りのプロとして、お客さまにとってよりよい空間を提供しよう。
R	RIPPLE 波紋 = 輪	義理人情を大切に、仲間、関係会社、お客さんの輪を広げていこう。
I	IMPROVE 改善・向上	技術と人格の向上を目指して、学び続けられる環境を提供しよう。
T	TOGETHER 一緒・仲間	仲間とその家族が「働いてよかったな」と思える会社を目指そう。

を設け、飲食店の視察などでは、調理師からのレクチャーを受けたあとで食事をこなうといった本格的な視察内容だ。

協力企業との信頼関係と 本部のバックアップ体制

もちろん、実際の施工においては、スキルの高い職人の確保が重要だ。建築業界では職人不足も指摘されているが、同社では、長い社歴のなかで協力企業との信頼関係が培われ、優秀な職

人の確保ができていているという。なかには親子二代にわたり同社の仕事を受注している職人もおり、同社の考え方を理解して臨む工事は、もちろん質の高い仕上がりにつながるという。また、工事関係者との信頼関係をより深めるため、業者親睦会を設けて、食事会などの懇親会やゴルフコンペ、釣り大会なども実施している。

さらに、現場監督をバックアップする本部スタッフの体制も重視している。経理担当者やCADオペレーターは

もちろん、現場への急な建材搬入の要望等にも対応できるように専属の配送担当者も配備されているのだ。これらのバックアップ体制も、現場監督が現場での作業に専念するうえで有効に機能しているといえよう。

問合せ

(株)K GRIT
千葉県船橋市宮本 9-11-1
TEL.047-432-4321
FAX.047-437-4320
http://kgrit.co.jp/